大阪国際工科専門職大生が企業と開発

AI活用でみせた介護・育児の未来

大阪シティ信用金庫（大阪市）は、大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンに出展する企業向けの支援事業を実施。６月10日から16日まで展示・出展ゾーンで「未来の生活スタイル～スマートルーム～」として未来を感じさせる技術や製品を展示する。同信金の紹介で大阪府内の企業と大阪国際工科専門職大学（大阪市）の学生が共同で開発した製品も紹介される。

学生が開発に携わり、万博で展示される未来のベッド

大阪シティ信金が万博出展支援

古賀機械製作所が出展する「自動患者移送装置」は、患者がベッドに寝た状態のまま別のベッドに移動させることを可能にし、介護の負担を軽減する。

工科学部情報工学科で人工知能（ＡＩ）を学ぶ6人が、ＡＲグラスとＬＥＤベッドの開発を担当。介護者や看護師の手が塞がらないようにゴーグル型のＡＲグラスに心拍数などのバイタル情報を表示させることを考案した。患者を誘導するベッドは、ＬＥＤで患者の動きを可視化させ、未来感も演出している。

カワキタが出展する「未来の抱っこバッグ」は、子供を乗せるだけで体重や体温の計測を可能にし、その数値を連携するスマートフォンに表示する。

同学科でＩｏＴを学ぶ2人が、計測ユニットとスマホアプリの開発を担当。抱く姿勢によって変化する体重の数値を補正するためにＡＩを活用し、さまざまな姿勢で重りを抱いてデータの取得を繰り返し、完成させた。アプリで体重の推移を管理することができ、子供の成長記録や健康状態の確認にも活用できる。

学生を指導した味戸克裕教授と原秀樹助教は「ものづくりの難しさを感じる機会を得られた。実際に開発した製品を万博の来場者に見てもらうことも学びにつながる」と話している。

未来の抱っこバッグもお披露目される

令和7年5月31日産経新聞掲載